

HIM-TAG 報告

2011.03.14

報告者： 東京医科歯科大学

中谷 純

1. 会議は、テレカンファレンス中心で行っている。今年度、2010年4月より2011年3月までの間に、約14回のテレカンファレンスを行った。なお、今年度は、HIM-TAG全体の対面会議は行われなかった。
2. 今年度の前半の全体会議では、各サブコミティーからの報告とディスカッションが中心であった。後半は、iCAMP2の結果分析、iCATの見直し、ICD11改定方式といったことが中心であった。なお、今年度からは、メンバーを分割し、サブコミティー毎に活動を行う形態に変更となった。日本は、Multilingual Development サブコミティーに参加している。
3. 本年度は、以下のようなコンテンツモデルの修正を行った
 - 3-1 Histopathology を Morphology に変更した
 - 3-2 iCATの検索方式を Lucene という BioPortal で使用されているより高速な方式に変更した
 - 3-3 新カテゴリーを作る際に起きることが想定されるカテゴリーの重複作成を、自動回避する機能を追加した
 - 3-4 スプレッドシートのインポートとエクスポートできる機能を追加した。
4. 日本からのジェノミクスサブ構造提案について
ICD11 コンテンツモデルのジェノミクスサブ構造について、ICD11と日本発信世界初のISO国際標準であるISO 25720 GSVML(Genomic Sequence Variation Markup Language), SNOMED-CT、NCK、GOなどとのインターフェース解析を行った。それらの結果を勘案し、逆転写型情報モデル構造としたジェノミクスサブ構造α版を素描した。次年度は、HL7、CENなどの臨床モデルと比較検討を行い、XML化した上で、HIM-TAGにて検討する予定である。

以上